

学校安全について

痛ましい事故が起きてしまいました。

（起こってしまってから発言だが）最近、校庭のサッカーゴールが固定化されていないな、と感じていた。

私の住んでいる地域でも、私が知る限り、昭和60年代、平成10年代に、類似した事故が起こっていた。平成10年代後半、国や教育委員会からサッカーゴールの安全対策が厳しく指示され、土囊をおいたり、荒天時は倒しておいたりしたものだ。

多くの学校では対策はとっているものの、一部、または、忘却等で対策がとられていなかったこともあるのだろう。

私が、最後の学校に勤務していたとき、校長は4月当初職員会議で学校経営の3つの柱を示した。その1つが「安全・安心の学校づくり」であった。職員会議の書類の1ページには、毎度必ずその3つの柱が示され、時点の進捗状況や重点を示して、職員に指示・注意喚起していた。

安全・安心は、いつの時代にも通用する学校の基本であろう。

そう考えると、学校経営はルーティン作業なのかもしれない。

今日的に言うと、前例踏襲、繰り返しはタブーなのかもしれないが、かつてあった事故やヒヤリハットを忘れずに繰り返して注意し対応することは非常に大切なことである。

学校に求められる今日的課題は非常に多く、一部の課題は大変大きくクローズアップされる。しかし、安全に、安心して学ぶことができることは、何より大切である。

マニュアルも大切である。しかし、管理職、一人一人の教職員が、「そういえば～なことあったね」、「この場所で～ことあったね」、「今日は、～年前に…があったね」とつぶやいて注意喚起できる雰囲気づくりが大切である。

時代は2～3年ひと昔であろうか。しかし、このような事故は、10年、いや干支が一周するスパンで一昔になりそうだ。このような事故が再び起こらないように、そして子供と保護者が安全に、安心して学べる学校にするために、気を引き締めていかなければならない。